

「令和3年度第2回 大阪府河川構造物等審議会」 傍聴者意見

開催日時	令和3年12月22日 水曜日 午後6時00分から午後7時41分まで
場所	大阪府西大阪治水事務所 1階 AB会議室（対面・Web併用）

（大阪市 中村氏）

発言内容

○住之江区の中村です。

前回のときも1点申させていただきましたが、護岸及び堤防の安全性を検討するというのは、それで結構かと思うのですが、これを50年の将来にわたって議論をするのであれば、今、答申が出ました安治川水門の設計思想を反映したものでなければならない、と申しますのも、この安治川水門のこのデザインに入る前の議論を聞いてますと、一つは、高潮についても温暖化で国がここ何年間のうちに、10年通してだったか20年かは忘れたけども、10センチ、20センチ上がることを想定した構造物を考えていこうと。

それから、その委員会のときに出た議論で、現在でも台風の通るコース等によって900ヘクトパスカルに近いものが来るとか、あるいは、先般もありましたが、瀬戸内を通るようなコースになったときには大阪への吹き寄せでかなりの水位が上がってくると、そういうことを勘案すれば、この水門についてはすぐやるというんじゃなくて、将来的には、まさにここでは50年と書いておられますけど、その当時は10年とか20年という議論があったと思うのですが、将来的には1メートル前後の高潮が来ても対応できる構造にすることというのがその議論にあったと思う。この景観のときにもそれを言ったのですが、今のこの答申を見ても、その遮蔽性のところは書いておられますけども、この高さがいかに高いものになるか、そういう表現はどこもありません。

今回の今日の議論の23ページ、それから最後の答えもそうですけども。

22ページですね。22ページのところで。

ちょっと長くなるかもわかりませんが、発言を許してください。

22ページになりますが、22の囲みのところで、この計画高潮位5.2プラス打上波高1.4と、これで6.6あればいいと。この5.2がですね、今の議論でいけば6.2前後あるいはそれ以上になってくるということなので、こういうものを確保できるようなものにしていかないと。水防法のとときに高潮で避難マップをつくれればいいという議論で出ましたが、台風というのは、ある気圧配置が今回のように線状降水帯とかいろんな形で、やはり一定の気象条件になれば毎年起きてくることです。ある台風で、先ほど言いました大型の台風で、今、台風による潮位上昇が3メートル前後と考えられてるものが、4メートル前後が起きたら、こういうことを考慮したものを考えていかないと50年先のものにならない。

それから、その下に津波高5.2とありますが、これは多分L1津波だと思うんです。今の三大水門の設計条件を見れば、L1プラスアルファという表現ですが、L2津波の強度で設計されてるのではないかと思います。ということは、L2津波になれば、これが6.4とか6.5とかになってくるはずなんです。それをもって津波ですから、御存じのようにかかなりの遡上を。こういう階段式堤防であれば遡上してくると思います。すれば、6メートル、7メートルは明らかに越流するわけです。そうすれば、この背後地は何も守られ

てないということになるわけです。ですから、50年先の議論をするのであれば、この三大水門の設計値である、私、この数値も具体的に教えていただきたいと思いながら、どこで聞いてもわからないんですが、何ぼで設計されてるのか。それと同じ高さになるように、ここの後ろの盛土ができるかとか、この護岸がかさ上げできるかとか、そういう議論をやって、さらにここで、100トンだったですかね、何センチか、最後のところで検討で。100トンぐらい。1メートルですか。1メートル以上盛っても沈下が8センチとか10センチでとまりますというような形にはなってますが本当にそういうこと、前回も言いましたが、今、土地利用が進んでいる近郊の土地利用を勘案してですね、さらに1メートルの盛土ができるかどうか。あるいは、その上流側の堤防なんかが1メートルかさ上げできるかどうか。そういう議論を踏まえてこの答申を出していただかなければですね、我々住んでる者から見れば、本当にこの答申で、安全ですよ大阪市は、というようなことは言えないんじゃないかと思います。ぜひ再考していただきたいと思います。